

第29回有機結晶シンポジウムの開催報告

慶應義塾大学工学部 吉岡直樹・三浦洋平

2021年9月27～28日、第29回有機結晶シンポジウムが開催されました。参加者の総数は、107名で（一般55名、学生52名）、発表件数は、招待講演2件、口頭発表19件、ポスター発表33件でした。招待講演は、井上克也先生（広島大院先進理工）、緒明佑哉先生（慶大理工）にお願いし、「結晶空間群と磁性—キラル磁性体の磁気構造—」、「柔軟な層状共役高分子材料の創製と動的機能」という演題で有機結晶と密接に関連する最先端の研究を紹介して頂きました。

昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大に伴い第29回有機結晶シンポジウムは延期となりました。今年も引き続きウィズコロナの状況でのスタートとなりましたが、部会役員会で春先より議論を重ねた結果、研究発表の機会を提供することを最優先として捉え、試行的ではありますが完全オンラインの形式で開催することになりました。オンラインでの会議や講義は既に日常のものとなりましたが、シンポジウムの運営面では、予稿集のオンライン配布などこれまでと異なるやり方も多々あり、シンポジウム当日まで試行錯誤が続きましたが、無事に開催することができました。広報委員会からのきめ細やかなご支援に感謝致します。参加者も100名を超え、口頭およびポスター発表を通して活発な質疑討論が行われました（ただし、例年のような懇親会ができなかったことは大変残念です）。シンポジウムを1日半の日程とした関係で、ポスタープレビューとポスター発表を1日目の夕方に組み込みました。そのためポスタープレビューは、一人1分以内という少々厳しい条件となりましたが、時間内に円滑に進めることができました。今回のシンポジウムでは、部会員以外の参加が半数を超えており、学生やポスドクなど若い研究者層がより積極的に有機結晶シンポジウムに参加していることは、今後の部会活動のさらなる発展に繋がるものと確信しております。シンポジウム最後の受賞式もオンライン形式となりRSC賞は英国王立化学会Kee氏から授与されました。学生からの発表には優れたものが数多くあり、公正な選考の結果、以下の7名の方々が講演賞ならびにポスター賞を受賞されました。

最後になりましたが、シンポジウムの開催にあたって貴重なご助言やご協力を頂きました部会役員や部会員の皆さまに心よりお礼申し上げます。

最優秀講演賞・CrystEngComm Presentation Award：

松永 周（山形大院理工）「ヨウ素-ヨウ素相互作用による分子配向制御を活用した非対称型チエノアセン系有機半導体材料の分子配向制御と電荷輸送特性」0-10

優秀講演賞：

馮 馳（北大院工）「可逆的形狀記憶効果を示す π -ヘテロ環状カルベン金錯体」0-6

鈴木 悠斗（阪大院基工）「異なる空孔径をもつ同型水素結合性有機フレームワークの構築」0-7

最優秀ポスター賞・CrystEngComm Poster Award：

福富 郷史（九大院工）「ゲスト交換とバイポクロミズムを示す柔軟な多孔性結晶材料の創製」P-4

優秀ポスター講演賞：

網 貴裕（阪大院工）「高フッ素化トリフェニルメチルアミンと四面体型テトラスルホン酸による多孔質構造の構築とその物性」P-11

安藤 廉平（北大院工）「NHC銅(I)錯体を用いた固体内分子ギアの精密設計と固体発光性」P-17

中村 拓海（千葉大院工）「キラル塩形成を伴う動的晶出法を用いたニコチンアミド誘導体の軸不斉制御」P-18

